

小 学 校

平 成 6 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

平成 6 年度

教 育 研 究 員 名 簿

分科会	区 市 町 村 名	学 校 名	氏 名
第 五 学 年	江 東 世 田 谷 練 馬 足 立 葛 飾 立 川	豊 洲 小 二 子 玉 川 小 上 石 神 井 小 加 平 小 二 上 小 上 砂 川 小	小 林 裕 子 細 川 治 美 波 井 和 子 田 中 貴 子 ◎高 橋 恵 子 原 田 孝 子
第 六 学 年	板 橋 江 戸 川 府 中 調 布 清 瀬	若 木 小 第 五 葛 西 小 府 中 第 九 小 富 士 見 台 小 清 瀬 小	江 原 恭 子 ○野 口 三枝子 河 合 ゆき代 大 野 まゆみ 古 山 真知子

◎世話人 ○副世話人

担当指導主事 東京都多摩教育事務所指導課

小谷野 茂 美

自らの生活を見直し、
主体的に実践する児童の育成

—— 「食物」領域の指導を通して ——

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の基本的な考え方	3
III	研 究 内 容	4
1	実 態 調 査	4
2	指導計画と評価計画	8
3	指 導 事 例	12
第5学年	食べることってだいじだね	
事例1	考えよう！ おやつ どんなおやつを食べたらいいかな 「よりよいおやつのとり方を考えよう」	12
事例2	考えよう！ おやつ どんなおやつを食べたらいいかな 「おやつメニューを作ろう」	16
第6学年	お料理上手になろう	
事例1	ホットドックを作ろう 「ウインナーソーセージを買ってこよう」	18
事例2	昼食を作ろう 「ぼくの、わたしの昼食を見直そう」	21
IV	研究のまとめと今後の課題	24

自らの生活を見直し、

主体的に実践する児童の育成

—— 「食物」領域の指導を通して ——

I 研究主題設定の理由

小学校家庭科においては、衣・食・住・家族にかかわる知識や技能を家庭生活と直接結び付け、自らの生活をより豊かに楽しく創造し、家族の一員としてよりよい生活を営むことができる力を育てることを目的としている。そのためには、児童が興味・関心をもって意欲的に学習する過程を通して、日常生活に必要な知識や技能を身に付け、家庭生活を向上させる実践的な力の育成が大切である。このことは、激しく変化する社会や家族の在り方に対し、児童自らが主体的に対応する能力を育てる学校教育の目標につながるものと考えられる。

「食物」領域は児童の興味・関心の高い領域であるが、ややもすると「作って食べる」ことに興味が流れやすく、日常の食生活を見直すまでには至っていない実情がある。また、児童の様子を見ると、健康を考えて食べるというよりも、何となく好きな物を好きな時に食べているという傾向も見られる。そのため、児童の食生活の実態では、「朝食をしっかりと食べないまま登校する。」「好き嫌が多い。」「スナック菓子などの買い食いにより塩分や糖分をとり過ぎる。」などが問題点として挙げられている。

また、家事の合理化や軽便化で家庭生活に対する意識も大きく変わり、家事労働に費やす時間は短縮されたが、その一方で、「家族揃って食事をするのが少ない。」「子供だけで食事をする回数が増えた。」「出合いの食品で食事を済ませる。」などの実態も増えている。

児童の買物に関する実態調査によれば、買物の経験は豊富であり消費者としての役割を担っていることが分かる。また、自分で買物に行くところとして「コンビニエンスストアの利用」が第1位に挙げられている。売り手と買い手の情報のやりとりが多い小売店に比べ、コンビニエンスストアでは自らの情報に頼って一方的に食品を購入しがちである。しかも購入する時に気を付けることの調査では、新鮮な食品を買い求める一方で「安い。」「おいしそう。」「おまけがある。」「テレビで宣伝していた。」などの外見のあるいは表面的な理由で購入し、品質表示などはあまり見ていないようである。

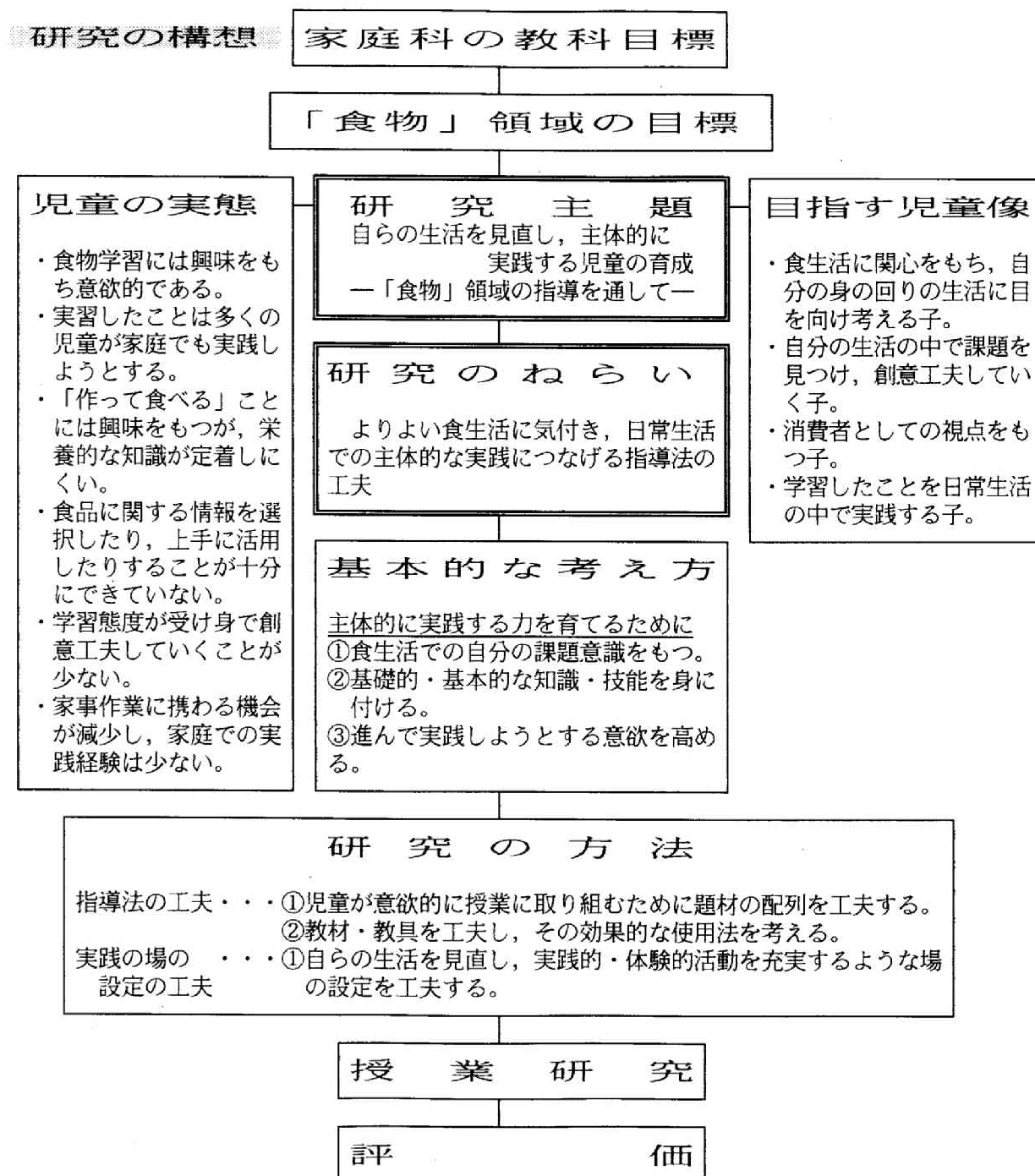
このような実態を踏まえ、児童自らが健康であるためにどのような食物をとることが望ましいかを考え、食生活を見直して、進んでよりよい食生活が実践できる力を身に付けることが必要であると考えた。そのためには、児童が興味・関心を持ち、自分の考えや思いを生かして基礎的な知識や技能を身に付けていくことが大切であると考えた。また、テレビやマスコミなどによる情報に振り回されることなく、消費者として情報を主体的に選択できることも必要である。

児童が「自らの生活を見直し、主体的に実践する」ことができるために、児童の発見や願いを大切に、学習したことを実際の生活に生かせる授業の確立を目指し、研究を進めることとした。

Ⅱ 研究の基本的な考え方

研究主題に迫るため、下図のような研究構想をたてた。

研究の推進に当たっては第5学年分科会と第6学年分科会に分かれ、それぞれ実態調査をもとに、教材・教具や学習資料の工夫・改善、指導の工夫などを図った。



Ⅲ 研究内容

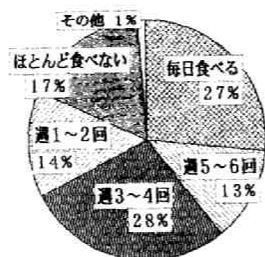
1 実態調査

- (1) 調査目的 児童の食生活に関する知識、おやつや買い物の実態などを調査し、「食物」における「自らの生活を見直し、主体的に実践する児童の育成」の指導のための基礎資料とする。
- (2) 調査対象 都内公立小学校11校の第5学年873名、第6学年858名、合計 1731名
- (3) 調査時期と方法 平成6年7月上旬 質問紙法による無記名調査
- (4) 調査結果と考察

<第5学年分科会にかかわる調査>

5学年対象 ● 結果 * 考察

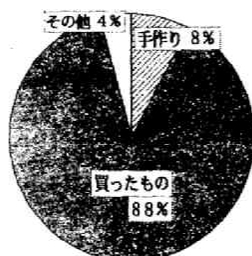
ア あなたは、おやつを食べますか。



● 「ほとんどおやつを食べない」と答えた児童は17%で、大体の児童が「おやつを食べる」と答えている。

* 「おやつを食べる」と答える児童が多いことから、おやつは、児童の食生活の一部分を担っていると思われる。

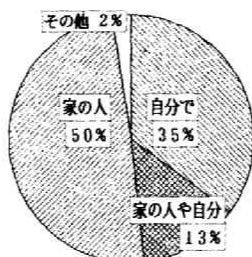
イ おやつは、どんなものですか。



● おやつは手作り品は少なく、市販の物が多い。

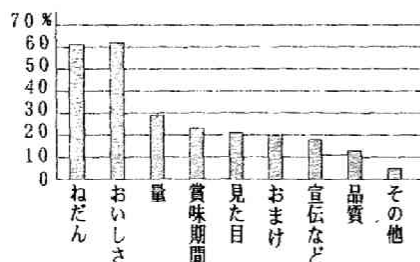
* 市販の物を購入して、手軽に間に合わせる傾向がみられるので、家庭にあるものでも、少し手を加えればおやつになることを気付かせていきたい。

ウ おやつを買うとき、だれが選ぶことが多いですか。



● 自分でおやつを選んで買うといった経験を多くもつ児童が50%近くいる。

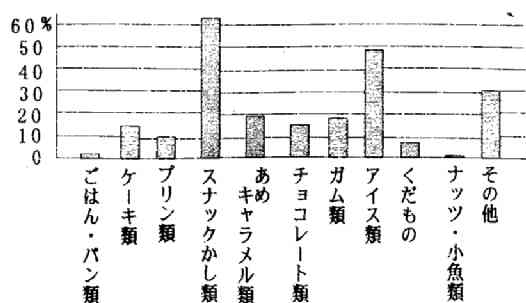
エ あなたは、どのようなことで、おやつを選びますか。(自由選択)



● 「ねだん」「おいしさ」をあげる児童が60%以上と多い。

* 消費者の一員として、児童も物の購入にかかわっている実態から、品質表示など、よりよい商品の見分け方などを指導していく必要がある。

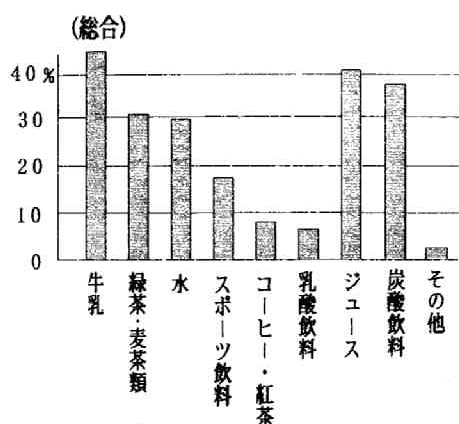
オ よく食べる、好きなおやつは何ですか。（自由記述）



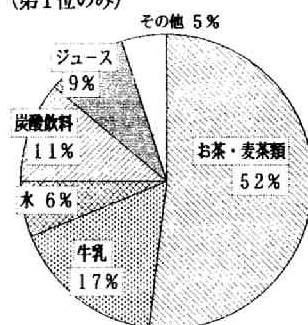
● 児童の多くが好んで食べているのは、スナック菓子類である。

* 市販の物を利用したおやつが多いことを裏づけた結果となっている。

カ よく飲む飲み物は何ですか。（よく飲む順に、3つまで記述）



(第1位のみ)



● 量的に多く飲まれるのはお茶・麦茶類であるが、牛乳、炭酸飲料、ジュースもよく飲まれている。

* 量が多い時には、糖分の少ないものを与えようとする親の働きかけがあるのではないかな。

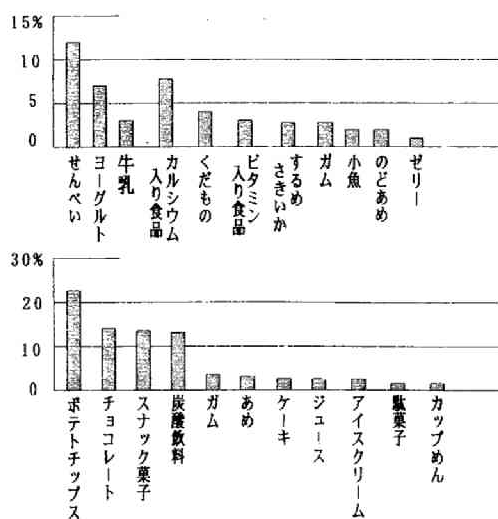
キ 体に良いおやつ、悪いおやつとは、どんなものだと思いますか。（3つまで自由記述）

よい理由：①カルシウム、ビタミン入り

②栄養がある

③歯応え、あごが強くなる

④体に良い食品でできている



悪い理由：①骨や歯に悪い

②砂糖が多い

③油っこい

④塩分が多い

⑤添加物が入っている

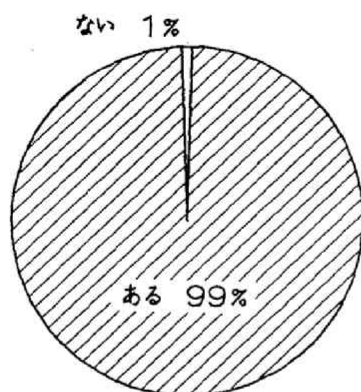
● あごが強くなる「せんべい」や、「カルシウム」や「ビタミン」入りの食べ物を体に良いと答えているのに対し、骨や歯に悪い「チョコレート」「炭酸飲料」などや、塩分が多い「スナック菓子」を体に悪いと答える児童が多い。

* 体に良いことをキャッチフレーズにしたCMをそのままのみにしている様子が見えるので、自らの食生活を振り返る中で、どんなおやつを、どのように食べたらよいか、主体的に考えられるように指導していく必要がある。

<第6学年分科会にかかわる調査>

6学年対象 ● 結果 * 考察

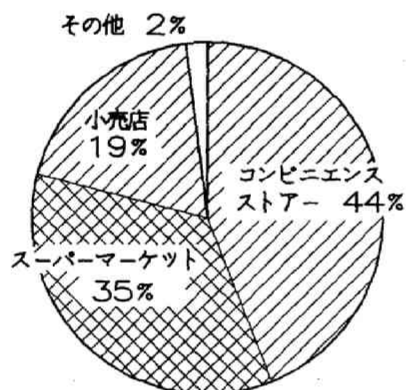
ア 自分で食べ物を買ったことがありますか。



● ほとんどの児童は、食べ物を買った経験があると答えている。

* 買い物の経験は、豊富なので、消費者としての意識をしっかりとらせていきたい。

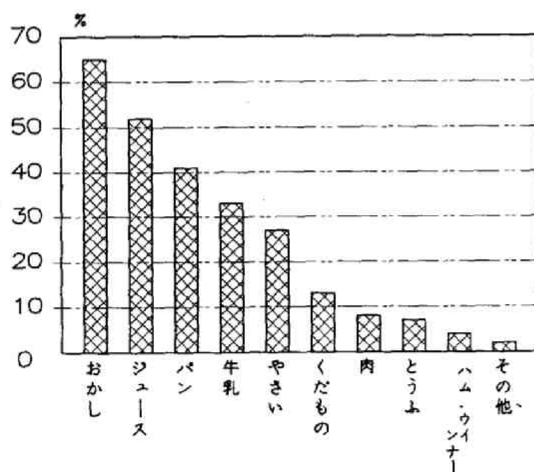
イ どこによく買いに行きますか。



● コンビニエンスストアやスーパーマーケットでの買い物の割合が多い。

* コンビニエンスストアは、品物が豊富であること、児童にとっては少額で買える菓子類なども置いてあり、気軽に便利に利用できる存在となっているようである。

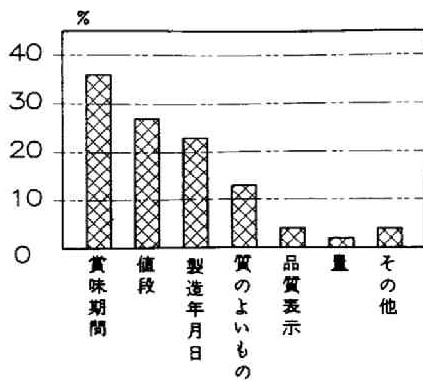
ウ おもに何を買ったことがありますか。(複数回答)



● お菓子の購入経験は、65%と高くジュースも50%を越えている。

* お菓子、ジュース、パンなど児童のこづかい程度の金額で買える範囲のものは買った経験が多く、食事にかかわるようなものについては、買った経験が少ないことが分かる。

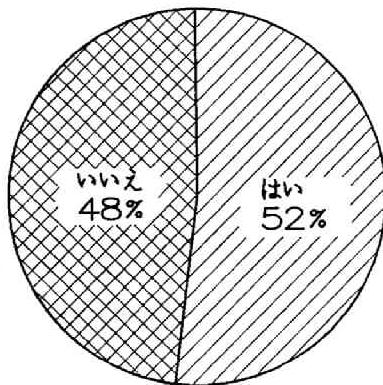
エ 食べ物を買うときに気を付けていることは何ですか。（自由記述）



● 賞味期間や値段、製造年月日に気を付けている児童が多い。

* 食品の購入にあたっては、5年生のおやつで学習した賞味期間や製造年月日を意識している児童は多い。しかし、品質表示などに気を付けている児童は少なく指導に配慮が必要である。

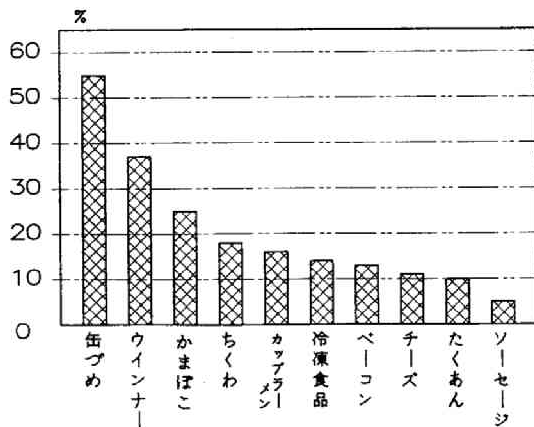
オ 加工食品という言葉を知っていますか。



● 加工食品という言葉を知っている児童は、52%である。

* アンケートの「カ」ともかかわるが「知っている」と答えても、具体的に加工食品の名前をあげられない児童もあり、加工食品とはどんな食品か指導する必要がある。

カ オで「はい」と答えた人は、どんな加工食品を知っていますか。（自由記述）



● 加工食品の中で、児童によく知られているのは、缶詰55%，ウィンナー37%，かまぼこ，ちくわなどである。

* 缶詰類の割合が高いのは、まぐろの油漬けや果物のシロップ漬けなどが、身近によく使われているためと思われる。また、食卓にのる回数の多い物があげられている。

2 指導計画

(1) 指導計画作成上の基本的な考え方

- ア 児童の学習意欲を高め、自らの生活を見直し、考え、実践する力を育てるために、実践的・体験的な学習を通して問題の解決を図る。
- イ 無理なく知識や技能の習得が進められるように、基本的なものから応用的なものへと発展するように題材を配列する。
- ウ 5 学年・6 学年とも、児童が課題をもち、主体的に学習が展開できるように、年間の題材を一つにし、どの小題材もそれと結び付き、学習の興味が持続するように図る。

「食物」領域の指導計画と題材の評価計画 第5 学年

題 材	合 計	一	小 題 材	時 数	
食べることってだいじだね	28	学 期	1 どうして食べるの	2	9
			2 たまごっていいね	6	
			3 いろいろな物を食べよう	1	

題材	小 題 材	評価の観点	家庭生活への関心・意欲・態度
食 べ る こ と っ て だ い じ だ ね	5 考えよう！ おやつ ①どんなおやつを食べたらいいかな ・おやつの意味や役割を考えよう ・よりよいおやつのとり方を考えよう 事例 1 ・おやつメニューを作ろう 事例 2	(7) (3)	・経験をもとに、おやつの意味や役割について考えようとしている。 ・ゆうちゃんのおやつのとり方を見直し問題意識をもとうとしている。 ・おやつのとり方を健康面に結びつけて考えようとしている。 ・自分のおやつを参考にしながら、おやつメニューを考えようとしている。
	②手作りおやつを作ろう ・実習計画をたてよう ・おやつを作ろう	(3)	・班で協力して、計画をたてようとしている。 ・実習計画をもとに、協力して作ろうとしている。
	③みんなで食べると楽しいね	(1)	・経験をもとに、団らんの意義について考えようとしている

<第5学年> 指導計画作成上の留意点

- ア 実践的・体験的な学習の場を設定し、関心・意欲をもち、主体的に自らの生活を見直し、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
- イ 児童の学習の関心や意欲を高めるために、導入部分を工夫する。
- ウ 「考えよう！ おやつ」では、児童が自らの食生活を見つめ、課題をもち、その課題解決を図る学習活動が展開できるように学習過程を工夫する。

二 学 期	小 題 材	時 数	三 学 期	小 題 材	時 数
	4 野菜となかよくしよう	10		5 考えよう！ おやつ	7

生活を創意工夫する能力	生 活 の 技 能	家庭生活についての知識・理解
・どんな時に食べるか、どんな物を食べるか考えて表している。 ・必要な資料を選び、工夫してまとめている。 ・学習した知識を生かし、メニューの組み合わせを工夫している。	・必要な資料を選び、まとめることができる。 ・おやつメニューを作ることができる。	・おやつの意味や役割について分かる。 ・おやつ、栄養のバランス、食べる量、砂糖や塩のとり過ぎについて分かる。 ・おやつメニューのよい点を示せる。
・おやつメニューを、目的に合わせて考えている。 ・能率よく実習できるように考えて計画をたてている。	・目的に合ったおやつメニューを作ることができる。 ・衛生や安全に気を付けて、簡単なおやつを作ることができる。	・材料の選び方が分かる。 ・調理の手順、方法などが分かる。
・場に合わせた団らんの仕方を考えて表している。		・団らんの意義について自分の言葉で言える。

<第6学年> 指導計画作成上の留意点

ア 実践的・体験的な学習を充実する場の設定を工夫し、関心・意欲をもち、自らの生活を見直し、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

イ 児童一人一人の意欲を高め、主体的に取り組むことができるような教材・教具を選び、題材を配列し、導入を工夫する。

「食物」領域の指導計画と題材の評価計画 第6学年

題 材	合 計	一	小 題 材	時 数
お料理上手になろう	28	学 期	1 便利だよ、じゃがいも！	2
			2 おいしい粉ふきいもを作ろう	2
			3 ホットドックを作ろう	4

題材	小題材	評価の観点	家庭生活への関心・意欲・態度
お料理上手になろう	3 ホットドックを作ろう	(4)	
	①ウインナーソーセージを買ってこよう	(1)	・買い物に関心を持ち、考えて品物を選ぼうとしている。 ・どんなことを考え、選べばよいか意欲的に考え、発表しようとしている。
	②ホットドックを作るには	(1)	・材料や料理の手順や方法、用具などを積極的に調べようとしている。 ・班で協力して計画をたてようとしている。
	③ホットドックを作ろう	(1)	・協力して実習しようとしている。
	④わが家のおすすめメニュー(加工食品のいろいろ)	(1)	・生活を見つめ、使用されている加工食品を調べ進んで発表しようとしている。
	5 昼食を作ろう	(4)	
	①ぼくの、わたしの昼食を見直そう	(1)	・買い物に関心を持ち、考えて品物を選ぼうとしている。 ・選んだ昼食について考え、気付いたことを発表しようとしている。 ・足りない食品群を補うことができるよう関心・意欲をもって考えようとしている。
	②ぼくが、わたしがコック長	(2)	・献立の条件や手順を、意欲をもって調べ話し合いに参加しようとしている。 ・献立を意欲的にたてようとしている。 ・実習計画を積極的にたてようとしている。
	③みんな集まれ食卓に！(実践発表会)	(1)	・意欲をもって、発表したり、話し合いに参加しようとしている。 ・友達の発表に関心を持ち聞こうとしている。

ウ 実践的・体験的な学習過程の中で、消費者としての必要な知識や技能を身に付け、よりよい消費者としての態度を育てる。

エ 栄養素・食品群などについての学習は、どの小題材でも取り上げ知識の定着を図るようにする。

二 学 期	小 題 材	時 数		三 学 期	小 題 材	時 数
	4 ごはんとみそしるを作ろう 5 昼食を作ろう	6 4	10		6 もうすぐ中学生！ ○○パーティをしよう	10

生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
・買い物に生かすことが見つけられる。		・ウインナーソーセージの選び方が分かる。 ・買い物をするときに気を付けることが分かる。
・安全で衛生的で能率よく実習できるように考えて計画を立てている。		・材料や調理の手順や方法用具などが分かる。
・手順を考え、能率的にできるよう工夫している。	・添加物のことが分かり安全に気を付けてウインナーソーセージを選ぶことができる。 ・おドックを作ることができる。 ・用具が正しく使え、後始末がきちんとできる。	
・学習経験を生かし、家庭で工夫して調理できる。	・家庭で調理することができる。	・加工食品の種類や利点などが分かる。
・足りない食品群の食品を工夫して補うことができる。		・食品を6つの食品群に分けることができる。 ・足りない食品群に気付き補うことができる。 ・栄養のバランスが整ったか確かめることができる。
・工夫して献立を考えようとしている。 ・手順を考え、能率的にできるよう工夫している。		・献立をたてる条件や手順が分かる。 ・（献立－実習計画）をたてることができる。
・家庭で、材料、手順を考え工夫することができる。	・家庭で一食分の食事を作ることができる。	・家族と一緒に食事をするよさが分かる。

3 指導事例

5 学年

(1) 題材名 食べることってだいじだね 小題材名 考えよう! おやつ

(2) 題材設定の理由

児童は、おやつが好きである。児童にとってのおやつとは、空腹を満たすものであったり、宝物のようにうれしいものであったりする。

本来、おやつには、3食の食事以外に栄養を補う、家族団らんや友達関係を円滑にする、気分転換を図るなどの役割がある。

実態調査によると、児童のおやつのとり方は、塩辛いスナック菓子や、甘いチョコレート菓子・飴・キャラメル類を食べることが多く、特に暑い時などは、アイスクリームや清涼飲料水なども多くなっている。また、手作りおやつを食べる児童よりも、市販のお菓子を食べている児童の方が多く、児童の半数近くが自分でおやつを買った経験をもっている。

本題材では、身近なおやつについて、児童がより興味・関心をもって見つめ直すことができるようにするために、ゆうちゃんという小学校5年生でお菓子が大好きな男の子を登場させた。そして、手紙のやりとりを通して、ゆうちゃんと一緒に考えるという形をとりながら、よりよいおやつのとり方を考える場を設定した。ゆうちゃんのおやつのとり方と自分のおやつのとり方とを比べることから、自分たちのおやつのとり方を見直し、問題点に気づき、よりよいおやつのとり方を主体的に考えることをねらっている。ゆうちゃんと一緒に考えることが、結局は自分の問題としてとらえていくことになると考えた。

更に、ゆうちゃんのいとこが遊びに来るという場面を設定して、よりよいおやつのとり方を生かしたおやつメニューを考えて作り、おやつの整え方の学習を行う。おやつには、市販の物だけでなく、家にある物に手を加えてできる物や、手作りの物があることを知り、少し工夫するだけで栄養的にも優れたおやつを整えることができるということを実感させたい。そして、今後の自分の生活に生かしていけるようになって欲しいと、願っている。

また、おやつを整えて食べることによって、楽しい団らんのひとときをもち、温かい人間関係をもたせたいと考え、この題材を設定した。

(3) 指導目標

- ① おやつの役割が分かり、よりよいおやつのとり方を考えることができる。
- ② 組み合わせを考えたり、簡単に作ったりして、おやつを整えることができるようにする。
- ③ 食べ方や勧め方を工夫して、日常生活での温かい人間関係がもてるようにする。

(4) 指導計画（7時間）

小題材「考えよう! おやつ」では、児童が興味・関心をもって意欲的に取り組めるように、

- ・課題をもつ
- ・見通す
- ・追究し解決する
- ・生かす

の4つの学習過程を考え、配列を工夫した。

「考えよう！ おやつ」の指導計画

過程	小題材	学習の内容	児童の活動
課題をもつ	ど ん な お や つ を 食 べ た ら い か な お や つ	・おやつの意味や役割を知る。 1/7 ゆうちゃんの手紙A ぼくは、おやつが大好きです。昨日食べたのは、アイスクリームとチョコレートとポテトチップスです。その他にも、ジュースやスポーツドリンクを飲みました。 ぼくは、おやつが大好きなので、ご飯なんかいらないから、おやつをたくさん食べたいです。そうすれば、大きらいなピーマンや魚を食べなくてすむからです。 こんな日が、毎日続くといいなと思いました。	・自分たちの経験を思い出し、おやつをどういう時に食べているか、何のために食べているかを話し合う。 ・ゆうちゃんの手紙を読み、ゆうちゃんのおやつのとり方について、自分と似ているところや違うところを考え、簡単な手紙を書く。
見通す	え よ う い か な お や つ	・よりよいおやつのとり方を考える。2/7 (事例1) ゆうちゃんの手紙B お手紙ありがとうございます。みんなが、ぼくのことを心配してくれて、とてもうれしかったよ。 みんなの言ってくれたことも何となく分かるけど、ぼくは今、元気だよ。 でも、少し心配になっちゃったから、もうちょっとくわしく教えてくれないかな。	・ゆうちゃんの返事を読む。 ・ゆうちゃんのおやつのとり方のおかしいところをくわしく教えてあげる。 ・おやつのよりよいとり方を知る。
追究し解決する	！ お や つ	・おやつメニューを作る。 3/7 (事例2) ゆうちゃんの手紙C みんな、いつもおやつのことについて教えてくれてありがとうございます。おやつってよく考えて食べなければいけないだね。 ところで、今度の土曜日にいとこのケンちゃん来るんだ。ケンちゃんは、ぼくと同じ5年生で3時ごろ来るらしいんだ。何かおやつを用意したいんだけど、ぼくは、サッカークラブがあって2時半ごろにならないと帰れないからどうしたらいいかな？ いい知恵かしてくれないかな？	・ゆうちゃんの手紙を読む。 ・おやつのよりよいとり方を考えながら、おやつのメニュー作りをする。
	手 作 り お や つ を 作 ろ う	・手作りおやつの実習計画 4/7	・手作りおやつはどのようなものを作りたいか話し合う。 ・実習の計画をたてる。 ・買い物の仕方て気を付けることを話し合う。
生かす	み と ん な で い い 食 べ	・手作りおやつの実習 5~6/7 ・団らんの意義について考える。 7/7	・計画のもとに、手作りおやつを作る。 ・家族や友達と一緒に過ごす楽しさを話し合う。 ・団らんの時に心掛けることは何か話し合う。 ・おやつの学習で学んだことを生かして、楽しく食べる食べ方を考える。

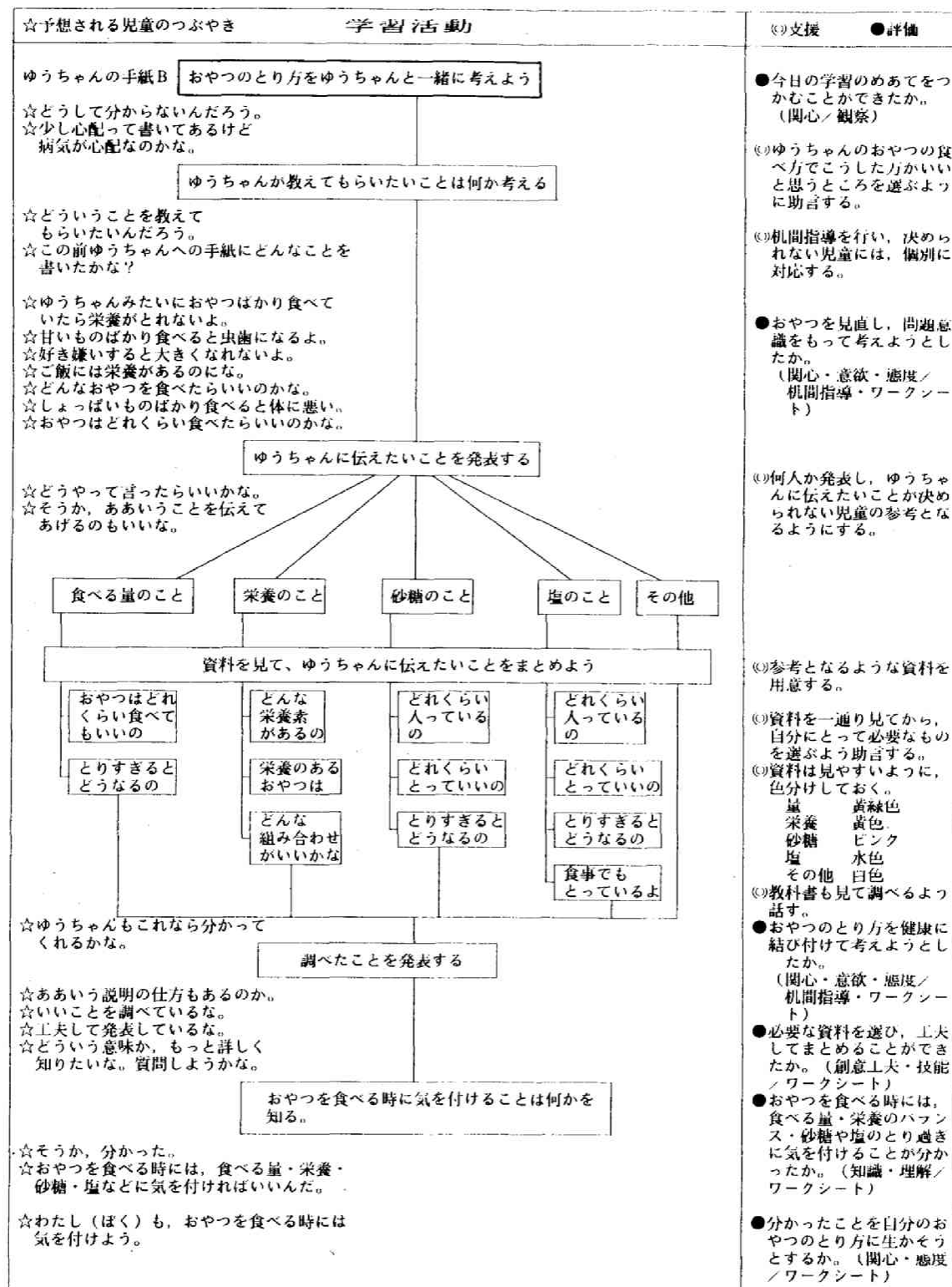
(5) 本時の学習

事例1 「よりよいおやつとり方を考えよう」(2/7)

ア 目標

○おやつとり方について、知りたいことを調べ、よりよいとり方について考えることができる。

イ 展開



ウ 考察

「考えよう！ おやつ」では、児童が自分の生活を見直し、課題の解決に向かって意欲的に取り組めるように、指導法や学習の場の設定の工夫を行った。

① ゆうちゃんの登場とゆうちゃんへの手紙、おやつの実物

教材・教具の工夫を行うことによって、児童はゆうちゃんに親近感を感じながら、楽しく学習を進めることができた。また、おやつについて、自分のおやつとり方とゆうちゃんのおやつとり方を比べることにより、問題意識をもつことができた。実際に、ゆうちゃんがどれくらいのお菓子を食べたかを知る時には、児童がよく知っているお菓子の実物を見ることにより、はっきりと実感することができた。

② 資料コーナーの設置

前時で、児童は、ゆうちゃんのおやつとり方についてよくないことは分かったが、健康に結び付けて考えるには至らなかった。そこで、資料コーナーを設置し、何種類かの資料を用意し、自分が知りたいことを調べることができるようにした。その結果、児童は、栄養のバランス、食べる量、砂糖や塩のとり過ぎによる弊害にまで目を向けておやつを考えるなど、進んで意欲的に調べようとしていた。

資料1 授業風景（資料コーナー）



③ ワークシートの工夫

1時間の授業で、調べたいことの資料を見て簡単にまとめられるように、書く分量や書く項目を工夫してワークシートを作成した。児童が調べることは1項目にして、調べたことを発表する時間を確保し、一人一人の調べたことを発表し合い、他の人の調べたことも聞くことができるようにした。児童は、友達の工夫を知ったり、自分が調べたこと以外にも新しい知識を身に付けることができたりして、更に、詳しく知りたいという気持ちをもつようになった。今後は、調べたことを発表する時、限られた時間でいかに

資料2 ワークシート

＜考えようおやつ＞ 5-（ ）（ ）

ゆうちゃんに教えてあげたいこと
私はお菓子をたくさん食べると、むし歯になるから、お菓子を減らした方がいい。

調べてわかったこと
・砂糖は、歯を溶かす。
・塩は、体に悪い。
・栄養のバランスが悪い。
・食べる量は、半分ぐらいにすればいい。

友だちの発表を聞いてわかったこと
・栄養のバランスが悪い。
・体の悪いお菓子は、体に悪い。
・野菜サラダは、体にいい。

栄養は、おやつでも、お菓子の塩もあまりよくないから、お菓子の量は半分ぐらいにすればいい。

いろいろな意見を発表することができるか工夫する必要がある。

④ 支援

調べる学習では、児童の活動の様子を観察し、課題が見つからない児童や調べ方の分からない児童の支援に力を入れた。自分だったらどういうことを知りたいか考えるよう声かけしたり、どの資料を見ればいいのか助言したりした。その結果、どの児童も、課題にそってまとめようとしていた。

事例2 「おやつメニューを作ろう」(3/7)

ア 目標

○おやつを整える時は、どのようなことに注意すればよいのかが分かり、自分でおやつを整えることができる。

イ 展開

☆予想される児童のつづき	学 習 活 動	◎支援 ◎評価
ゆうちゃんの手紙C ☆ゆうちゃんは 何をしてほしいんだろう。 ☆前の時間は何を調べたんだろう。 ☆ゆうちゃんに知らせてあげたことは どんなことだったろう。 ☆どんなおやつにしようかな。 ☆自分の好きな(今食べたい)おやつを書こう。 ☆栄養のことを考えて飲み物は牛乳にしようかな。 ☆甘い物ばかりになってしまったけどいいのかな。 ☆「おやつを考える上での注意点」が考えられているおやつかな。 ☆頭では分かっているようだけれど、実際におやつを考えると 難しいな。 ☆どうしても砂糖の量が多くなってしまおう。 ☆友達はどうなおやつを考えたかよく聞こう。 ☆工夫したところはどんなところかな。 ☆なぜ、このようなおやつにしたのか質問してみよう。 ☆いろいろなおやつがあっておもしろいな。 ☆○○さんのおやつはよく工夫されているな。 ☆△△さんのおやつは「砂糖」のとり過ぎに気を付けたんだな。 ☆◇◇さんのおやつは少し「食べる量」が多いかもしれない。 ☆□□さんのおやつは自分のと似ているな。 ☆おやつを整える時には、買ってきた物をそのまま出すだけで なく他にも方法があるんだな。 ☆手作りおやつは時間がかかりそうな感じがするけど、工夫すれば 簡単にできる物もあるんだな。 ☆ちょっと工夫するだけで、おやつを整える時の注意点を踏まえた おやつができるんだな。 ☆○○さんのアイデアを取り入れれば、もっとよいおやつメニュー になるかもしれない。 ☆自分で考えたおやつを作りたいな。	調べたことをもとにして、ゆうちゃんのつもりでおやつを考えよう おやつを考える時に気を付けなければならないことは どんなことだったか思い出す 食べる量に 気を付ける 栄養のバランスに 気を付ける 砂糖のとり過ぎに 気を付ける 塩のとり過ぎに 気を付ける おやつを考えてワークシートに書く チェックリストで確かめる 自分の考えたおやつをグループ内で発表し合う グループの代表がクラス全体に発表する おやつを整え方には「買ってきた物」「手作り」 などの方法があることに気付く 今日の学習で分かったことや、自分の考えたおやつで、もう少し工夫し てみたいことなどをまとめる	●今日のめあてをつかんだか。(関心/観察) ◎前時のワークシートから 砂糖 食べる量 栄養 塩 について何人か児童を把握しておき、なかなか思い出せない場合には、その児童から意見を出してもらってヒントにできるようにする。 ●学習した知識を生かしておやつメニューを作ることができたか。(関心・態度、創意・工夫/机間指導、ワークシート) ◎前時のワークシートから特に指導を要すると思われる児童を把握しておき個別指導する。 ◎児童全員が「おやつを考える上での注意点」を踏まえておやつメニューを作成したが、さらに自分の考えを深めたり、訂正したりすることができるよう配慮する。 ◎発表者を決める時には、おやつメニューの内容で決めるよう助言していく。 ◎机間指導で、よい意見を出した児童を把握しておき、発表できなかった時には、教師が参考意見として出せるようにしておく。 ●自分で作ったおやつメニューのよい点を示しながら発表できたか。(態度/観察) ◎「手作り」おやつは、どうしても難しい物を考えてしまうので、既習している「ゆでたまご」を利用して作る「たまごサンド」などを例にして、簡単に用意できる物もあることを知らせる。 ●おやつを整える時の 注意点 砂糖 食べる量 栄養 塩 に気を付けておやつメニューを作ることができたか。(知識・理解/ワークシート)

ウ 考察

①「おやつメニューを作ろう」という場の設定

自分たちと同年代の子供が遊びに来た時のおやつを考えるとということで、「自分ならどんなおやつにしてほしいかな。」「どんなおやつを出してあげたら喜ばれるかな。」など、あたかも自分がゆうちゃんになって、おやつを作ってあげるかのように意欲的に取り組む姿が見られた。

②チェックリストの工夫

自己評価の場面でチェックリストを用いたことは、児童が考えたおやつメニューについて、「おやつを考える時に気を付けなければならない点（食べる量、栄養のバランス、砂糖や塩の量）」を踏まえているかどうかを児童自らチェックすることができただけでなく、チェックをしながら悪い点に気が付き、「ジュースをやめて牛乳にしよう。」とか、「おせんべいを1枚減らそう。」などのように自発的にメニューの内容を訂正する様子も見られ、主体的に学習を進めていた。

③発表の仕方の工夫

発表の際にOHPを用いたことは、クラス全体に分かりやすく良かった。また、黒板に掲示したワークシートに「食べる量」「栄養」「砂糖」「塩」の文字カードをはったことは、分かりやすいだけでなく、児童がまとめを書く際にも参考に使っていた。

④支援

グループ内で発表し合う際に、友達の発表のよい点や、工夫している点を見つけられるよう机間指導をした。その結果、「おやつは、お菓子だけでなく栄養のことも考えて食べた方がいいんだ。」「果物を取り入れれば、ビタミンCもとれるんだ。」など自分の考えとは違った意見を新しい知識として、おやつメニューに取り入れたりする姿も見られ、進んで取り組もうとする意欲が高まった。

資料1 ワークシート

どんなおやつにしようかな 5年 組

ゆうちゃんが用意する一人分のおやつ（1回分）

くふうしたこと

フルーツミックス
（バナナ、りんご、いちご、ぶどう）

いろいろな果物が入っているから、栄養が豊富で、塩も入っていない。量は多すぎないし、少ないでもない。

チェックしてみよう

おやつは1人分を考えているか	☐
栄養は考えているか	☐
量は多すぎないか	☐
塩は入っていないか	☐

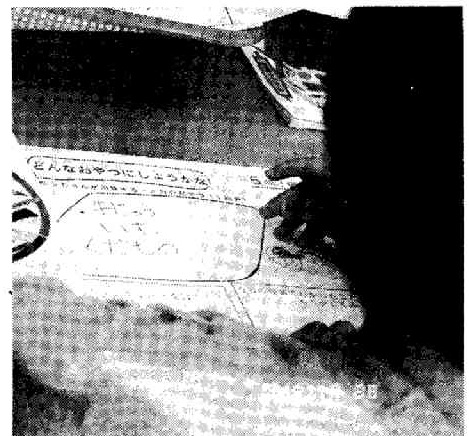
今日の授業でわかったこと「さき前」

おやつは、もう少しくふうしたいこと

でもさき、塩入ったフルーツミックスは少し量、栄養のことを時間がかかるとも考えるのが大変。手がかかる物にしたい。

資料2 授業風景

（おやつメニューを考える）



第6学年 事例1

(1) 題材名 お料理上手になろう 小題材名 ホットドッグを作ろう

(2) 題材設定の理由

児童は調理実習が大好きであり、意欲的に学習してきた。しかし学習や家庭での実践を通して身に付けた知識や技能を家庭生活に積極的に生かし、工夫して調理しようとする主体的な態度はまだ十分には身に付いていない。

6年生になって初めての調理実習では、家庭や給食でよく使われる「じゃがいも」を取り上げ、じゃがいもの特徴やじゃがいもが様々に工夫されて食べられる利用価値の高い食品であることを理解するとともに、粉ふきいも作りを通して「じゃがいもの調理」に関心をもたせたい。そして、食品を調理して食べる楽しさや、調理することによって味や見た目も違った料理に変化するなどの良さに気付くことによって、調理への意欲が高まると考えた。

更に、調理を工夫する観点から加工食品についても考えてみたい。6年の食物では、動物性たんぱく質をとるための食品として保存性のある魚・肉の加工品を活用した簡単な調理を既習の技能を生かしてできるようにすることを指導内容としていることから、「ホットドッグ作り」を取り上げてウインナーソーセージの安全性を考えた利用の仕方を工夫する。そして、現在出回っている加工食品の中には、昔の人が本来保存を目的として食品の加工をしてきたこととは違う物が多数含まれており、自分の命を守り健康な日々を送るためには、毎日口にする食品を自分で選択し、良いものとそうでないものの区別ができる確かな目を持ち、生活に生かしていくことのできる消費者としての能力や態度を育てることが大切と考えた。

(3) 指導目標

- ① 食品には様々な調理方法があり、それによって味や見た目が違ってくことをじゃがいもの調理を通して知ることができる。
- ② じゃがいもの特徴を知り、工夫して調理することができる。
- ③ 加工食品の特徴について知り、安全性に気を付けて選ぶことができる。
- ④ 魚や肉の加工品を使った簡単な調理に関心を持ち、計画的に実習することができる。

(4) 指導計画 (8時間)

- ① 便利だよ、じゃがいも!・・・・・・2時間
- ② おいしい粉ふきいもを作ろう・・・・・・2時間
- ③ ホットドッグを作ろう・・・・・・4時間
 - ・ウインナーを買ってこよう (買い物のしかた) 1時間 (本時)
 - ・おいしいホットドッグを作るには (材料と分量、計画) 1時間
 - ・ホットドッグを作ろう (実習) 1時間
 - ・わが家のおすすめメニュー (加工食品のいろいろ) 1時間

(5) 本時の学習 「ウインナーを買ってこよう」 (買い物のしかた)

ア 目標

- 加工食品の選び方や買い物の仕方が分かる。
- 目的に合った材料を意欲的に選ぶことができる。

☆予想される児童のつぶやき

学 習 活 動

◎ 支援 ● 評価

☆どれにしようかな。
☆日付はいつかな。
☆(B)と(C)はどこが
違うかな。
☆色がきれいな。
☆ホットドックに大きさが
合うかな。
☆おいしそう。
☆2袋だと〇円お得だ。

☆(B)を選んだ人が多い
んだ。
☆(A)や(E)や(D)
の人もある。
☆(C)を選んだ人はいな
いな。
☆選ぶ時に気をつけることは
何かな。

☆日付を見ることが大切な
んだ。
☆着色してあるのはやめよ
う。
☆量が多く、使わずに残し
てしまうよ。
☆値段は高いけれど添加物
の少ない方が、体にいい
んだ。

☆製造年月日の新しい品物を選ぼう。
☆品質表示には、材料が詳しく書い
てあるよ。
☆使う分量を考えて買おう。

☆品質表示をよく見て添加物の少な
い品物を買おう。

☆5人グループだから分量を考えて
買ってこよう。

☆夏休みにホットドックを作ろう。
ウインナーを買う時は、よく考
えて買おう。

ホットドックを作ろう

ウインナーを買って来よう

(A) ● 色付き ● 赤色 ● 保存料	(B) ● 皮なし ● 保存料 ● 日付が新しい	(C) ● 皮なし ● 保存料 ● 古い	(D) ● 皮なし ● 保存料 ● 2袋でお 買い得	(E) ● 無添加
-------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	--	--------------

選んだ理由を話し合おう

(A) ● 色がきれ い ● おいそ う	(B) ● 着色して いない ● 日付が新 しい	(C) (選ばれな い設定)	(D) ● 着色して いない ● 安い ● 量が多い	(E) ● きれいな 味 ● 安い ● 量が多い
----------------------------------	--------------------------------------	----------------------	--	--------------------------------------

選ばなかった理由を話し合おう

(A) ● 着色して ある ● 着色料は 体によ くない	(B) ● 日付は新 しいが保 存料が含 まれている	(C) ● 着色して いないが 日付がB より古い	(D) ● お買い得 であるが 分量が多 過ぎる	(E) ● 値段が高 い
---	--	---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------

加工食品の選び方を考えよう

- ① 製造年月日を見る
- ② 品質表示を見る (品質の良いもの)
- ③ 値段や量を考える

買い物に生かしたいことをまとめよう

調理実習で使うウインナーを買ってこよう

学習したことを生かして、家庭で実践しよう

◎ペーパーサートで学習のめあ
てを分かりやすくつかむよ
うにする。

◎売り場に実物を置く。

◎ウインナーを手にとってよ
く観察して選ぶように助言
をする。

●買い物に関心をもち、考え
て品物を選ぶようとしている
か。(関心・意欲/買い物
ワークシート)

◎みんなが、何をどんな理由
で選んでいるか、全体の傾
向が分かるように板書など
で工夫する。

●どんなことを考え、選べば
よいか、意欲的に考え、発
表しようとしているか。
(関心・意欲/観察、ワー
クシート)

◎意見交換をする時間を十分
取り、選ばなかった品物に
ついて理由を確認する。

◎友だちの意見を聞いて、変
更がある場合は、ワークシ
ートを直すように助言をす
る。

●加工食品の選び方が分かり
買い物をする時に気をつけ
ることが分かったか。
(知識・理解・創意工夫/
発表、ワークシート)

●買い物に生かすことが見つ
けられたか。
(知識・理解・創意工夫/
発表、ワークシート)

ウ 考察

児童の消費者としての能力や態度の育成を図るために、買い物を模擬体験できる場を設定して関心・意欲を高める工夫をした。

- ① 一人一人の児童が日常の経験や知識を生かして意欲的に買う物を選ぶことができるように、肉の加工品としてウインナーソーセージの実物を5種類用意し模擬店を作った。実態調査からウインナーの買い物は経験が少なかったため「やってみよう。」と促したところ、興味をもって進んで売り場へ行き、品物を手に取ってよく見たり、友だちとどれにするか会話したりする様子が見られ、積極的に品物を選ぶことができた。また、「ホットドッグ作りのためにウインナーソーセージを買ってこよう。」と、ペープサートで学習のねらいをつかむための支援をしたことも意欲的に学習する手だてとなった。
- ② 共通の体験をすることによって、加工食品を選ぶという課題を一人一人がもつことができた。選んだ理由は初めは様々で「おいしそう。」「2袋の方が安い。」「友だちと同じ品物でいい。」などと主観的であった児童も、意見交換することを通して品質表示の内容や製造年月日、賞味期間に関心をもち、加工食品の選び方の大切さに気付き、買い手としての問題意識をもつことができた。そして、次時の「ホットドッグを作ろう」では実際にウインナーを買って来て実習し、学習したことを生かすことができた。また、学習後の児童の買い物カードからもここでの学習が役立てられていることが分かり、消費者としての芽が育ったと考える。
- ③ 児童はホットドッグ作りを大変喜び、意欲的に実習することができた。また、夏休み中に家庭で実践した児童も多く、簡単にできる昼食として児童の発達段階に合っていると考える。魚・肉の加工品を使った調理として基礎的な知識や技能が身に付き、「お料理上手になろう」のステップとして適切であった。

資料1

授業風景 (模擬店)



資料2 学習後の買い物カード

買い物をして 6年 組
氏名()

品物のえらび方がとてもよく分かりました。今までは安さと形、色などだけでえらんでいました。けれど、買い物をした賞味期間や品質も考えて買うようになりました。日ごろ、お母さんの手伝いで買い物の手伝いをするので、私はこの買い物がものすごく、ためになったと思います。これからの買い物はこれをいかして買いたいです。

第6学年 事例2

(1) 題材名 お料理上手になろう 小題材名 昼食を作ろう

(2) 題材設定の理由

児童の「食物」領域の学習に対する興味・興心は高い。児童は今までの学習で、栄養素のかたよった食事が健康に良くないことや、安全を考えた食品を選ぶ必要などについて学び、認識も少しずつだが深まっていると思われる。

しかし、現実の児童の食生活においては、朝食が菓子パン1個だけだったり、休日の昼食や塾通い前後の夕食をコンビニエンスストアなどで、出き合いの品を買って済ませてしまったりということが少なくない。また、児童や家族の生活時間の変化により、家族が揃わず、児童だけで食事をとることも増えている傾向にあると考えられる。

そこで、今回の小題材では、日本人の食生活から切り離すことのできない米飯とみそ汁について学び、さらに米飯を主食にした昼食の献立を考える。昼食の献立を考えることにより、栄養を考えた食物のとり方の理解を一層深めたい。「昼食を作ろう」の初めの一時間では、自分の食生活を見直す目を育て、消費者としての視点も取り入れて体験的な学習ができる題材を取り上げた。食物は、ただ単に空腹を満たしたり、嗜好を満足させたりするためだけでなく、健康を考えた食生活のためには、何を選び、どのように食べたらよいのか。——児童が、自らの生活を見直し、さらに実際の場面での主体的な実践につなげたいと考え、今回の指導計画をたてた。

また、ごはん、みそ汁、献立作りの学習、実習、家庭実践を通して、家族への思いやりや、家族が共に食事をすることの大切さや楽しさを分からせたい。

(3) 指導目標

- ① 自分の食生活を振り返り、よりよい食生活の仕方が分かる。
- ② 米とみその栄養上、調理上の特徴を知り、ごはんとみそ汁を作ることができる。
- ③ よりよい食生活のために、栄養のバランスのとれた一食分の食事を考えることができる。
- ④ 家族と一緒に食事をする大切さや楽しさが分かる。

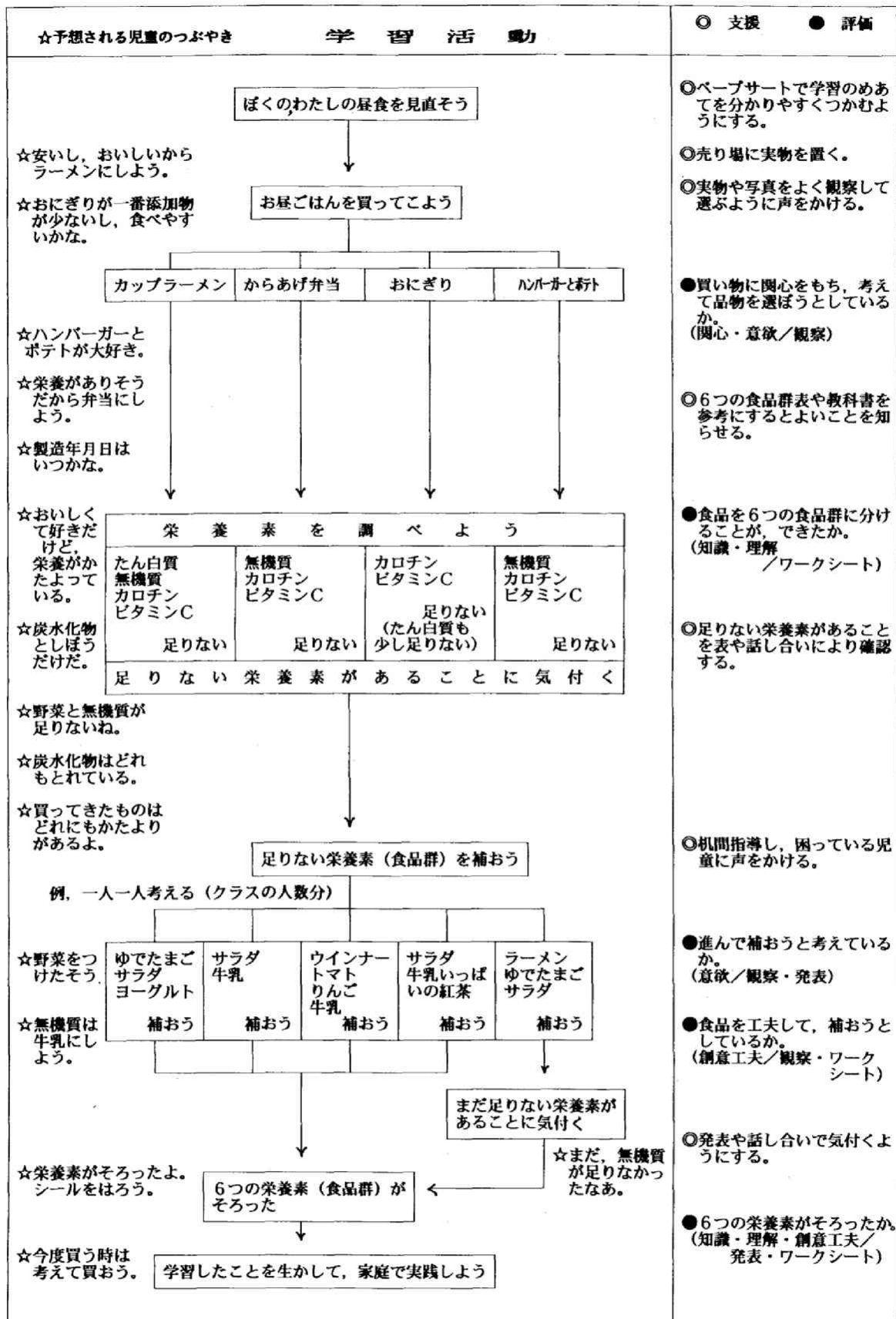
(4) 指導計画（10時間）

- ④ ごはんとみそ汁を作ろう 6時間
 - ・ごはんたきは、おまかせ（米とごはんのたき方） 2時間
 - ・みそ汁も作ろう（みそとみそ汁、実習計画） 2時間
 - ・ごはんとみそ汁を作ろう（実習） 2時間
- ⑤ 昼食を作ろう 4時間
 - ・ぼくの、わたしの昼食を見直そう（栄養を考えた食物のとり方） 1時間
 - ・ぼくが、わたしがコック長（昼食の献立、実践計画） 2時間
 - ・みんな集まれ食卓に！（実践発表会） 1時間

(5) 本時の学習 「ぼくの、わたしの昼食を見直そう」

ア 目標

- 自分の食生活を見直すことができる。
- よりよい食生活のために栄養のバランスのとれた一食分の食事を考えることができる。



ウ 考察

- ① 本題材では、ある休日の昼食を、出き合いの品を買ってくることで済ませるという、児童の実際の食生活でもありうる場の設定をし、学習を進めた。昼食の実物を用意することで、より身近な提案として児童の興味・関心をもたせ、本時の学習への意欲を引き出すことができたと考えられる。

それぞれを選んだ理由として、「好きだから」「おいしいから」「いつも食べているから」「安いから」「栄養がありそうだから」などがあり、品質表示や製造年月日などを見て選ぶ児童もあり、品物を購入するという消費者としての視点を共に考える糸口となった。

- ② どの品物を購入したとしても、野菜類や無機質類が不足する。食品を6つの食品群に分ける作業によって、不足する栄養素（食品群）があることに気付かせた。黄・赤・緑の食品群の色をはっきりさせ視覚的にも確認できる工夫をした。児童は、実生活で野菜が足りないということをしっかり認識せずにカップラーメンなどを食べていることも多く、本時では自分の買ってきた物に不足する栄養素があることに気付くということを大切にした。

その上で、第6学年の力としては、それを補える力まで付けたいと考えた。本時の学習を通して自分の食生活を見直すきっかけとなることを一番のねらいとした。そして、それは学習後の児童の感想文からおおむね達成できたと考えられる。例えば、ラーメンを選んだ児童が、「作るのが簡単で選んだが、すごく栄養にかたよりがあることに気が付いた」として野菜サラダとゆで卵を補っていたり、「いつも買うし、おいしいから」という理由でおむすびを選んだ児童も「野菜が全然入っていない」と気付く、レタスときゅうり、にんじんを食べるメニューを考えている。6つの食品群のバランスがとれたことを確かめ、シールをはり自己評価とした。その結果、全員の児童がシールをはることができた。

- ③ 足りない食品を補う学習では、児童一人一人が主体的に考え、工夫できるように食品絵カードで作業する方法をとった。一食分のメニューを考える上で具体的にイメージでき、児童の思考を助けるものと考えたからである。絵カードも、黄・赤・緑の色別にし、いろいろ並べ変えることもできて、絵カードを使ったことによって全員の児童が不足している野菜や無機質類を補うことができた。また、主体的に実践する力を育てるために、基礎的

資料1 学習カード

おむすびを買ってよう

1. おむすびを買った理由

おむすびが大好きだから。

2. 足りない食品を補うために考えたメニュー

野菜が、かたよっていたのを、せんきずかなが、たけのこ、サラダやの、みものを、たまたま、いじょうが、た、とかかりました。

3. 足りない食品を補うために考えたメニュー

食品群	食品	量	栄養素	不足している食品
黄	カレー	1杯	炭水化物	野菜類
赤	トマト	1個	ビタミンC	たんぱく質
緑	レタス	1/2個	ビタミンA	ミネラル
黄	きゅうり	1/2本	ビタミンB	たんぱく質
赤	ゆでたまご	1個	たんぱく質	ミネラル
緑	おむすび	1個	炭水化物	野菜類

な知識・技能を身に付けることも大切にし、食物学習のたびに栄養的な見方を少しずつ取り上げてきたことが、本時の学習の土台となった。

資料2 児童の感想より

コンビニで買ったものには意外に足りないものが多かったのだから、これからは、買う時に何が足りないのかをよく見て自分で作ってみようと思います。

IV 研究のまとめと今後の課題

本年度は「主体的に実践する児童の育成」を研究のねらいとし、それを達成するために題材の配列の工夫をし、教材・教具や学習資料の工夫・改善を図り授業を行った。

- ・題材の配列については、年間を通して系統的に学習が深められるよう配慮し、児童が興味・関心をもって学べるように工夫した。
- ・教材・教具については、できるだけ視覚や感覚に訴えるものを工夫した。
- ・授業の展開については、体験できる場面を設定し児童が楽しく参加し、主体的に取り組むことができるようにした。

これらのことにより、家庭生活での実践に対する意欲も高まり、自分の生活を見直していこうとする態度がみられた。

1 5 学年分科会のまとめ

- ・「考えよう！ おやつ」の学習では、ゆうちゃんとの手紙のやりとりを通して自らのおやつのとおり方を見直すことができ、課題意識をもつことができた。
- ・ワークシートやチェックリストで興味・関心をもってまとめることにより、基礎的・基本的な知識を身に付けることができた。
- ・発表の仕方を工夫し交流することにより、実践しようとする意欲を高めることができた。

2 6 学年分科会のまとめ

- ・体験的活動を充実させたことは、課題がつかみやすく具体的で効果があった。児童は意欲的に取り組み楽しく学習することができた。そのことにより、家庭で実践しようとする意欲を高めることができた。
- ・普段、児童が食べているものを教材化することにより、実生活に基づいた経験ができた。また、授業と実生活が一致し、食生活にすぐ役立てることができた。
- ・品質表示を見るなど、品物の選び方の観点が深められ、消費者としての態度が芽ばえた。

3 今後の課題

- ・自分の課題については興味をもち意欲的に学習していくが、他の課題についての関心や理解がやや低いため、今後、意見の交流の仕方や発表の仕方を更に工夫し、学習の質を高めていく必要がある。
- ・児童の実践意欲を高め主体的に取り組むための教材・教具、指導法については、他の題材でも、更に工夫していく必要がある。
- ・評価については重点をおいて研究を進めるまでには至らなかったが、学習の結果だけでなくその学習過程を評価することも大切だと考え、座席表を利用した評価方法を工夫した。しかし、更に検討する必要がある。